

ドローンの実演会を開催しました

～薬剤散布の省力化を目指して～

千葉農業事務所改良普及課 令和5年10月25日発

ドローンによる薬剤散布は、水稻栽培では普及が進んでいますが、露地野菜栽培では散布に適した登録薬剤が少なく、普及が進んでいません。しかし、最近ではドローンで散布できる登録薬剤数が増加したことで、露地野菜栽培においてもドローンを活用した防除が可能になってきました。そこで農業事務所では10月2日、大規模露地野菜農家を対象に、市原市の露地だいこんほ場でドローンによる薬剤散布の実演会を開催したところ、10名の生産者を含む17名の出席がありました。当日は、農薬メーカーの協力のもと実演し、感水紙（※）により植物への薬剤付着程度を確認しました。

出席者からは、「ドローンの活用へ向けたイメージができた」、「野菜の株元に薬剤をかけられるようになれば導入を検討したい」等の声が聞かれました。農業事務所ではいただいた声を生かして関係機関やメーカー、生産者と連携し、技術改善に取り組んでいきます。

※感水紙とは、水滴が付着すると変色する試験紙です。



ドローンによる薬剤の散布



薬剤の付着程度を確認する出席者